

病害虫発生予察技術情報について

平成30年度 病害虫発生予察技術情報 第3号を公表しましたので送付します。

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期について

カンシャコバネナガカメムシは葉鞘や未展開葉部に潜み、集団で吸汁加害する。成虫の翅の長さには変異があり、翅が長いタイプの長翅型は夏から秋にかけて移動分散する。1茎当たり虫数が20頭を超えるほ場や、一斉防除を行う地域では、防除適期を失しないよう注意する。

1 防除適期予想日

- (1) 沖縄本島中南部における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は1.2頭(前年3.1頭、平年2.1頭)と平年並であった。齢期は3月6日時点で3.2齢であった。
- (2) 宮古島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は1.8頭(前年0頭、平年14.0頭)と平年並であった。齢期は3月8日時点で2.0齢であった。
- (3) 石垣島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.9頭(前年0.6頭、平年16.5頭)と平年よりやや少なかった。齢期は3月8日時点で1.7齢であった。
- (4) 防除適期予想日(3月18日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島*1	4月1日 ~ 4月16日	4月8日	4月23日	15日早い
南・北大東島*2	3月31日 ~ 4月15日	4月7日	4月19日	12日早い
宮古島及び周辺離島*2	3月25日 ~ 4月9日	4月1日	4月14日	13日早い
石垣島及び周辺離島*2	3月20日 ~ 4月4日	3月27日	4月8日	12日早い
与那国島*2, 3	3月24日 ~ 4月8日	3月31日	4月10日	10日早い

\*1 2/1~3/17は観測値、3/18からは1か月予測値を使用(沖縄気象台発表)。

\*2 2/1~3/17は観測値、3/18~4/1は2週間予測値(試験提供中)、4/2からは平年値を使用(沖縄気象台発表)。

\*3 3/4のみ観測値に代わり平年値を使用(沖縄気象台発表)。

2 生態

- (1) 集団で葉鞘や鞘頭部に潜み吸汁加害する。
- (2) 年2~3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には長翅型と短翅型がある。長翅型は高温・高密度で出現し、移動分散を行う。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3~4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4~6月が第1世代、7~8月が第2世代、9~10月に第3世代が発生する。



図.カンシャコバネナガカメムシの長翅型成虫と幼虫

3 防除上注意すべき事項

- (1) この時期に茎当たり虫数が20頭を超えるほ場は防除を行うことが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

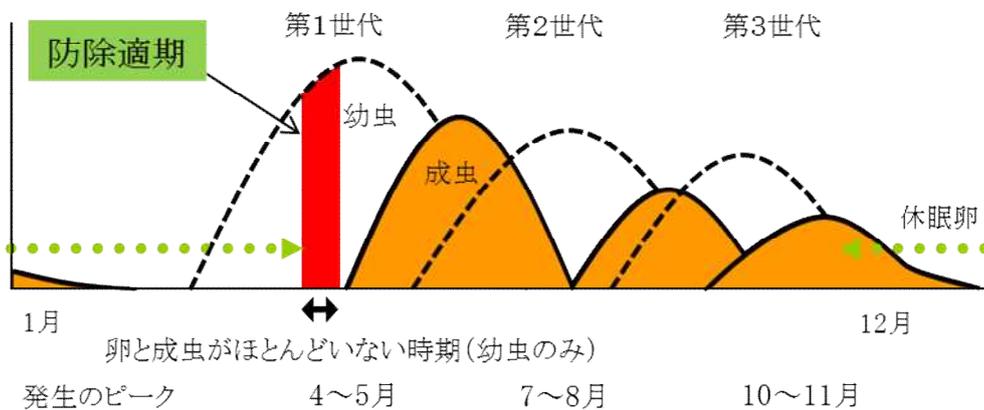
★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★  
TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

【参考資料】

1 防除適期とは

カンシャコバナネナガカメムシの防除は、農薬の効きにくい卵や成虫がいない時期が最適です。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化し終わり、その数週間は成虫もほとんどおらず、さとうきびの草丈も低いため農薬散布するのに適しています。

下の図の赤い部分が最も薬剤散布に適した時期です。この時期は卵がすべてふ化する時期を予測することで算出されます。2月1日を起点として、日平均気温が13℃を上回った温度(2月1日が16.4℃だった場合は3.4℃)を累積し、480℃を超えた日が防除に最適の日となります。その前後1週間が防除適期に含まれます。また、この予想日に発生する幼虫の齢が平均2.5になるため、予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっています。



2 要防除密度

農作物に害虫が発生したとき、その発生量を確認しないまま農薬散布を行うと農薬等の散布にかかるコスト(経費)が防除で獲得した利益を上回ってしまうことがあります。

カンシャコバナネナガカメムシにおいては、茎当たり虫数が9頭以下のさとうきびほ場では減収しません。この状態で防除を行うことは農薬の無駄使いです。それでは一茎当たり何頭のとときに防除を行うと利益が経費を上回るのでしょうか。調査研究の結果、一茎当たり20頭以上のときに防除利益が経費を上回ることが分かっていますので、防除適期に発生量を確認の上、防除の要否の判断を行ってください。

